

# 県内の風力発電事業活発化

再生可能エネルギーの導入促進機運が高まるなか、発電事業者が東北などに続く適地を求めて福井県に注目し、風力発電所の建設計画が相次いでいる。稼働中は2カ所だけの同県で、次々と環境影響評価(アセスメント)の手続きが進む。風力発電所とともに道路や観光スポットが整備されることもあるため、地域活性化への期待も聞かれ、本県の地域振興は「原発」から「風力発電」に舵を切るか！

## 環境影響評価方法書

### 縦覧開始相次ぐ

菅義偉首相が温室効果ガスの排出量を2050年までに実質ゼロとする目標を掲げ、注目が集まる再生可能エネルギー。風力発電は、太陽光発電などと並んで代表的な再生可能エネルギーによる電気エネルギーの一つ。その名の通り、風のエネルギーを電気エネルギーに変えるもので、欧米諸国と比較すると導入は遅れているものの、2000年

以降導入件数は急激に増え、2017年度には設備容量350万<sup>ワット</sup>、設置基数2253基となっている。

本県でも新年早々、風力発電事業の環境影響評価方法書の縦覧開始が相次いだ。

電源開発(東京都中央区銀座6丁目・渡部肇史代表取締役)が、大野市と池田町の行政界付近で風力発電(仮称)福井大野・池田ウインドファーム事業」を計画。出力は最大4万7300<sup>ワット</sup>程度。風力発電機は最大11基とし、単基の定格出力は最大4300<sup>ワット</sup>を予定。

定。事業実施の想定面積は約291<sup>ヘクタール</sup>。

発電機の概要はブレード枚数3枚、ローター径130<sup>メートル</sup>、ハブ高85<sup>メートル</sup>、ブレード上端150<sup>メートル</sup>程度。基盤構造は今後の地質調査の結果により決定。

変電施設、送電線、系統連系地点も検討中。工事期間は4カ年を想定。春季から秋季にかけて実施、冬季は積雪のため休工とする。具体的に着工時期や運転開始時期は未定。ソフトバンクグループのSBエナジー(東京都港区)は、福井市で「福井国見岳における

風力発電事業(仮称)」を計画。出力は最大3万8700<sup>ワット</sup>程度。事業実施区域は約355<sup>ヘクタール</sup>、風力発電機の設置対象外の面積は約50<sup>ヘクタール</sup>。

発電機はブレード3枚、ローター直径約120<sup>メートル</sup>、ハブ高さ(ブレードの中心高さ)約85<sup>メートル</sup>、最大高さ約145<sup>メートル</sup>、170<sup>メートル</sup>、カットイン風速3<sup>メートル/秒</sup>、定格風速15<sup>メートル/秒</sup>、カットアウト風速25<sup>メートル/秒</sup>、耐用年数25年。発電機は今のところ、対象事業実施区域の尾根上に一定の距離を取るよう配置する計画、基盤構造は検討中。

発電した電力は対象事業実施区域から約15<sup>キロメートル</sup>に位置する北陸電力送配電の送電線に連系する計画で、連系点の近傍に変電設備を設置し、風力発電機と変電設備を送電線で結ぶ計画だが、そのルートは現在検討中。

中部電力(名古屋市東区東